

地域医療の橋わたし

WE
LOVE



January 2022
地域医療支援学レター

vol.
38



CONTENTS

- 活動報告
- セミナー報告
- リレートーク第38回
- 指導医も巡回診療を
松江赤十字病院
院長 大居慎治先生



活動報告

令和3年8月30日(月)～10月1日(金)

研究室配属

【配属学生】医学科3年生6名

講座には地域医療を学びたい学生6名が配属になった。

前半は大学病院内にある患者会や地域医療連携センターの方からお話を伺い、その後出雲市内のクリニックや訪問看護ステーション、保健所でのフィールドワークを通して、病診連携や多職種連携等について学んだ。

後半は浜田市弥栄診療所の所長・阿部先生のご指導の下、「新型コロナ感染症が中山間地域の診療所の活動に与えた影響」について、2泊3日弥栄町でのフィールドワークを行った。1日の実習終了時には、阿部先生からのフィードバックを受け、新型コロナ感染症が与えた影響や今後に向けた提案についてまとめた。

講座内発表を行い、最終発表には2題出し、弥栄地域において継続的に研究を進めた「地域公共交通が保障すべきセーフティネットの水準に関する研究」が最優秀発表者6人の1人に選ばれた。



令和3年10月3日(日)14:30～17:30

令和3年度 第2回 しまね総合診療の集い(ハイブリッド開催)

【場所】みらい棟4階ギャラクシー
【参加者】52名(対面15名 Web 37名)【講師】島根大学医学部 総合診療学講座／大田総合医育成センター
講師 木島 康貴 先生
島根県立中央病院 救命救急科 医長 樋口 大先生

本年5月に開催された『令和3年度総合診療専攻医合同オリエンテーション』の統編として、「しまね総合診療の集い」の名称で第2回が開催された。

最初に樋口先生から、来春開始を予定している「高度総合診療力修得コースfor島大」について概要の説明が行われた。

続いて木村先生より、総合診療医に重要な3つの理論から、第1回に取り上げた「患者中の医療技術」の復習が行なわれ、今回のテーマ「家族思考型ケア」の講義に入られた。

症例提示やロールプレイをもとに「家族」についてディスカッションを行い、患者の症状出現には家族の問題が反映されていることが多くあり、個々人の健康に影響を及ぼす要素であることが理解できた。参加学生は総合診療の基本となる考え方を学び、専攻医は家族志向型ケアを理解され、今後のポートフォリオの作成に取り組まれる事と考える。



令和3年11月30日(火)18:00～19:30

地域医療体験実習Ⅱ (フレキシブル実習)報告会(Web開催)

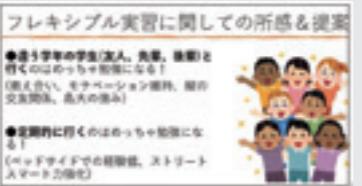
【実習参加者】8月～10月:16名 【報告会参加者】11名(別日個別2名)

今年度第2回の地域医療体験実習Ⅱ(フレキシブル実習)報告会を行った。8月から10月の間に参加した学生は約16名であった。

コロナ禍の為、県外での実習は叶わなかったが、島根県の4医療機関(隠岐病院、隠岐島前病院、浜田市民健康保険弥栄診療所、雲南市立病院)でお世話になった。

自らが目的を持って臨む実習に対し、協力頂く医療機関もその目的が達成できるようご配慮を頂いて、学生達の主体性に基づいた学びの大きさには毎回感動を感じる。医療機関で出会う先生方はロールモデルとなり、学年の垣根を超えた情報共有は次につながるモチベーションとなっていくように感じられた。

ある学生から「フレキシブル実習に関しての所感と提案」が伝えられた。多くの学生に参加頂き、学びを深められるよう、了承を得てスライドを載せる。



令和3年度島根大学医学部 地域枠等入学生全学年会(Web開催)

【場所】みらい棟2階共通カンファレンスⅠ 【参加者】18名(学生10名)

6年生の実行委員長の挨拶に始まり、続いて佐野教授から「これからの能力:救援力・発信力・共感力」「医学・医療に加えて第2の得意技を持つ」等メッセージが贈られた。

しまね地域医療支援センターの児玉事務局長には、キャリア支援について島根県の医師数の現状やキャリア形成プログラム等についてお話し頂いた。

実行委員長の進行の下、自己紹介から始まり本会の催し物として6年生から「島根県クイズ」が出題された。最初から答えのスライドが出るというようなオンラインならではのハピニングがあり、笑い・突っ込み・拍手が起こり一気に参加者の距離感が縮まり、楽しい交流の場となった。

最後の挨拶は前教授の谷口先生より「同期・同窓生・地域枠等“つながり”を大事に財産にして、夢を持って学生時代を送ってほしい」とメッセージが贈られた。



令和3年10月1日(金)18:00～20:00

「地域医療学」の講義スタート!!

1年生を対象にした「地域医療学」の講義が始まった。地域医療学は地域社会における医療を多元的な視点から理解することを目指し、地域医療が抱える課題を解決するための方略を学ぶとともに、地域医療に対する使命感を養うことを学習目標としている。

コロナ禍2年目の講義は、対面50%・オンライン50%のハイブリッド方式で始まった。講義は概論から始まり、離島・市街地・中山間地域の医療、多職種連携、海外での医療、地域包括ケア、公衆衛生と地域医療、高齢社会と地域医療、災害医療、病院前救急、医学史の内容で組み立てられている。

講師陣は学内教員、島根県衛生行政担当者や県内で地域医療を実践する総合診療医等の先生方、更には患者会や地域医療を守り育てる住民活動の会の方々である。

学生の地域医療への関心の高まりと今後の活動を期待したい。



令和3年12月13日(月)17:30～19:00

第2回えんネット交流会

【場所】みらい棟2階共通カンファレンスⅠ
【参加者】女性医師9名、学生4名

今年度第2回の交流会を久しぶりの対面で開催した。1～4年生、男女2名ずつの学生参加もあった。これまでの経験などを含めた自己紹介の後、男子学生からは「女性医師を含む医師たちは結婚や出産等のライフイベントにどのような生活スタイルで対応しているのか」という質問があった。個々人の様々な働き方の回答に感嘆の声や笑いが聞かれた。今や、男子学生でも学生時代からライフイベントとキャリアを考えるのかと、驚きと一方で主催側としては喜びも感じた。

学生からは「このような機会に沢山のお話を聞くことができてよかったです、また参加したい」と嬉しい感想が聞けた。コロナ禍ではあるが、状況をみながら対面での開催を継続していきたい。

来夏年の開催には、ぜひ多くの方に参加してもらいたい。



セミナー報告

SEMINAR REPORT

地域医療Webinar



在宅医療を支援する
～加藤病院のモバイルヘルスケア～
【実施日】令和3年12月8日(水)18:00～19:00
【講師】社会医療法人 仁寿会 加藤病院 診療部長 山口 拓也 先生
【参加者】18名

概要

モバイルヘルスケアとは地域に届けるヘルスケアサービスの総称で、ヘルスプロモーションセンター等で訪問・巡回診療等を行うことを言うのである。

加藤病院では院内に連携拠点を整備し、医療と介護の一体化を実現して、チームを組んで総合的 在宅ケアサービスを提供している。実習時には多職種連携の細やかな情報共有場面等を学んで欲しいと話された。

患者にとっての在宅医療のメリットや訪問診療の場面を写真で紹介下さり、「対象との信頼関係の構築が大事である」と話される通り、そこには患者さんの穏やかな表情が見られ、その場の空気感が伝わった。

最後に理事長の「つながる」を大切に」のメッセージで締めくられた。地域・地域に暮らす対象者、そして協働する職員間に確かなつながりが感じられ、医療者の姿勢をお教え頂いたお話をあつた。

Career Webinar



リウマチ膠原病内科ってどんな科?

【実施日】令和3年10月20日(水)12:15～12:45
【講師】島根大学医学部膠原病内科学講座 助教 本田 学先生
【参加者】16名

概要

先生が膠原病に興味を持たれたのは「薬物治療に興味があった、治療によって患者さんが良くなる、病気に対し理論的に対応していくのが良い」が切掛けだったそうである。

初期研修で様々な診療科に関心が向き入局科が絞り切れず「最後に自分にとって悪いところを探す減点・消去法をもって決めたのが膠原病内科で、大きな大志を抱いて入局したわけではない」と謙遜して話された。

進路に悩んでいる人に「運命では決まらない、面白そう・反対に自分には合わない等、なぜ自分はそう思うのか、自分の根っこ部分に隠れた物差しを見つける事が大事だ」と自己との対峙の必要性を話された。

最後に膠原病内科について、著名な先生の言葉を借りるならば「直接命を救うことは少ないかもしれないが、患者さんの人生を救う仕事」であり、そこにやりがいがあると締めくられた。

病理組織学的な診断研究の魅力

【実施日】令和3年11月15日(月)12:15～12:45
【講師】島根大学医学部病理学講座 器官病理学教授 門田 球一先生
【参加者】17名

概要

先生は自己紹介で、お名前が球一であるが野球は得意ではない事、愛媛県の出身で島根県が初めての本土上陸での生活である事等ユーモアたっぷりに話され、会場が一瞬にして和むのが感じられた。

呼吸器病理学が専門の先生は、これまで臨床的な治療方針の決定に影響を与える病理組織所見を発見する等、その業績が日本のがん取扱規約やWHOの腫瘍分類に記載される輝かしい功績を残している。病理診断は診療において最終診断として扱われる為、臨床医との密なコミュニケーションが重要であると話された。

また留学について、研究の魅力を知るために良い機会で色々な海外の事を知る上でも経験として大事であると自身の留学からその意義を伝えられた。

最後に今後の研究をご紹介頂き、学生からは将来の進路の選択肢の一つとして大いに参考になったと感想が寄せられた。

第38回 リレートーク

TITLE | 指導医も巡回診療を



松江赤十字病院

院長

大居 慎治 先生

松江赤十字病院の救護班は、戦後の医療資源の乏しかった1946年から約5年間、県内限なく延150ヶ町村を巡回診療しました。その精神は脈々と受け継がれ、今でも地域医療拠点病院として、巡回診療、医師・看護師派遣をしています。院外活動を支援する部門は欧米型の医療社会事業部となり、現在は社会福祉士(MSW)が活躍しています。

1950年代には国の施策により僻地医療支援病院からの巡回診療、医師派遣、遠隔治療などが始まりました。1970年代には自治医科大学の設立、一県一医大構想が実現しました。しかし今でも医療の偏在は残っています。一方で若い医師にとっては都市部での生活や(総合医を含めた)専門医資格は一大事関心事です。解決には都市部や大学・教育病院と地域の病院との行き来が重要と思っています。拠点病院での専門診療科の経験も重要ですが、地域医療においても専門医の指導が必要です。

指導医も拠点病院から巡回診療のように地域へ派遣する仕組みができたらいい。専門医機構のプログラム認定も都市部と過疎地の行き来、指導医の行き来をもっと柔軟にしてほしい。そして県内で優れた医師が育ち、優れた指導医が増えることを願っています。



日本赤十字社 松江赤十字病院

〒690-8506 島根県松江市母衣町200

TEL:0852-24-2111

研究室配属 最終発表会における優秀発表者 受賞コメント 医学科3年 福田 学さん

私は地域医療を志し入学したことから、普段目にする大学病院での医療から更に視点を広げて、地域医療の実際を学べる地域医療支援学講座を志望しました。

配属期間中は、地域の診療所に加え、生活支援・介護分野、行政、学校など多様な現場に学び、また民生委員や地域住民の方にまでお話を伺う機会に恵まれ、医師に求められる「架け橋」としての役割的重要性を立体的に再認識できました。

救急医療機関から遠く離れた過疎地域での実習の際、「ここで心筋梗塞を起こしたら助からない。だから、予防医療に懸けるしかない。」という言葉が忘れられません。足がなければ、医療機関に行けない、当たり前の気づきから、医療の観点からみた過疎地域の交通サービスにおける最低保障水準の研究にも取組ませていただき、このたび、幸いにも優秀発表者表彰を賜りました。御指導くださった先生方、実習先の全ての皆さん、そして友人たちに心より感謝申し上げます。



雲南省立病院学生との意見交換会
令和3年10月22日(金)18:00

今後の予定

Career Webinar

令和4年1月26日(水)12:15~12:45

講師:和田 耕一郎 先生
島根大学医学部泌尿器科学講座 教授

令和4年2月9日(水)12:15~12:45

講師:佐藤 匠哉 先生
島根大学医学部整形外科学講座 医科医員

令和4年3月予定

講師:並河 徹 先生
島根大学医学部病態病理学講座 教授

地域医療Webinar

令和4年1月11日(火)18:00~19:00

講師:小早川 義貴 先生
国立病院機構本部 DMAT事務局(災害医療専門職)

第12回中四国地域医療フォーラム

令和4年2月5日(土)
①プレ集会 10:00~12:00 ②本会 13:00~16:30

地域医療体験実習I(春季地域医療実習)

令和4年3月14日(月)~3月18日(金)

CHECK



レターをお読みいただきありがとうございます。

年が改まり、皆様も冷たい空気の中で手を合わせられたことと思います。昨年の願いをかなえて下さったことに感謝し、大切な人たちがこの一年健気に過ごせますように等々。そして、みな一様にコロナが早く収束しますようにと。

今年度の医師国家試験は2月5・6日(土・日)です。学生達の努力が、3月16日(火)「合格」という吉報で結実することを願い、今一度手を合わせたいと思います。

今年も「WE LOVEちいき」をどうぞよろしくお願ひ致します。

